



## ごあいさつ

昨今の建設業を取り巻く環境問題は、振動・騒音、建設廃棄物の不法投棄から地球温暖化に至るまで、その規模は有形無形を問わず広範囲に及ぶものとなっています。特に地球温暖化は、化石燃料の大量消費によるCO<sub>2</sub>の排出が最大の要因であり、生態系の破壊をはじめ異常気象による自然災害を誘発するなど深刻な影響を与えており、建設業界としても事業活動にともなうCO<sub>2</sub>の排出抑制に向け、英知を結集し可能な限りの取り組みを進めていかねばならないと考えています。

当社におきましても、平成17年度からの3カ年計画である「環境中期行動計画2005」の中で、CO<sub>2</sub>の排出抑制にかかる具体的な数値目標を掲げ、空調負荷を低減したビルの設計、省エネ技術の開発・提案、工事施工における低減対策の実施など、その達成のために全力で取り組む一方、オフィス活動でも従来から行っている紙・ごみ・電気の削減活動に加え、国民的プロジェクトである「チーム・マイナス6%」に企業として参加し、クールビズ、ウォームビズなども展開しています。

昨年はアスベストによる健康被害や耐震偽装事件が社会問題となり、企業の社会的責任に大きな関心が集まりましたが、当社におきましては、従来からリスク管理のあり方を経営上の最重要課題の一つであると認識しており、本年5月に策定した「内部統制システムの構築の基本方針」では、“絶えず変動する経営環境の中で企業として社会的責任を果たしつつ、事業にともなうリスクを管理していく”ことを改めて明記し、その着実な実践に傾注しているところであります。

当社は来年2月に創業100周年の節目を迎えます。これからも「広く社会に貢献する」という経営理念のもと、建設会社として社会基盤の整備や環境保全活動はもとより、社会的な取り組みも積極的に進めてまいり所存です。そのためにも、本報告書を通して奥村組の取り組みをご理解いただくとともに、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

2006年9月

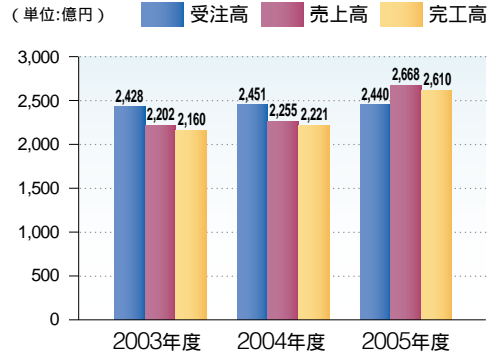
株式会社 奥村組  
代表取締役社長

奥村 太加典

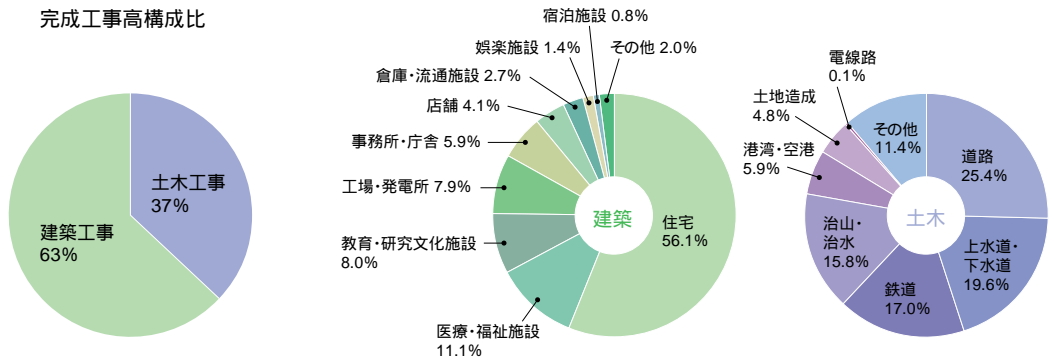
会社概要

社 名 株式会社 奥村組  
 創 業 明治40年(1907年)2月  
 創 立 昭和13年(1938年)3月  
 資 本 金 198億円(2006年3月末現在)  
 受 注 高 2,440億円(2006年3月期)  
 売 上 高 2,668億円(2006年3月期)  
 従 業 員 数 2,493名(2006年3月末現在)  
 本 社 大阪市阿倍野区松崎町2-2-2

受注高・売上高・完工高の推移



完成工事高構成比



contents

ごあいさつ	1	オフィスにおける活動	15
会社概要	2	環境配慮新技術の開発	17
マネジメント		社会とのかかわり	
環境保全に対する方針展開と体制	3	コンプライアンス	19
2005年度の環境目標・実績	5	コミュニケーション	20
マテリアルバランス	6	従業員とのかかわり	
環境会計	7	労働安全衛生	21
環境マネジメントシステム	8	人事制度	22
環境保全活動報告			
環境配慮設計	9		
環境配慮施工	10		

本報告書の基本要件

対象範囲：(株)奥村組のみとし関係会社は含みません。  
 対象期間：2005年4月1日～2006年3月31日です。ただし、一部2006年8月までの情報を含めています。  
 表紙写真：【自然に学ぶ】ハタオリドリの巣と超高層免震マンション  
 細い木の枝などの先に、草などを編んで丸い巣を作るハタオリドリ。一見、頼りなさそうな巣ですが、枝がしなることによって強い風や衝撃を受け流し、巣が壊れたり地面に落ちたりするのを防いでいるのです。外部から加わった力を吸収して、躯体に伝えない。この考え方を、私たちは建物の免震技術に応用しています。  
 写真左 ハタオリドリと巣  
 写真右 高さ161m。地上43階建ての超高層免震マンション「シティタワーグラン天王寺」(大阪市、2007年2月竣工予定)と、免震構造を支える「積層ゴム支承」と「オイルダンパー」  
 参考指標：「環境報告書ガイドライン2003年度版」(環境省)  
 「環境会計ガイドライン2005年版」(環境省)  
 「建設業における環境会計ガイドライン2002年版」(建設業3団体)